

1月授業づくり講座 報告

1. 内容

テーマ:「新学習要領に基づく小学校新教科書は、どうなっているのか」

「中村哲医師・金八先生から学ぶハンガーマップの授業」

講師:宮崎令子さん(埼玉歴教協・元小学校教員)

参加者:19名(小9、中3、特支3、大1、学生3)

2. 講師の宮崎令子さんから

第1部「新学習指導要領に基づく小中学校社会科・国語教科書はどうなっているか」

「南京事件」について「ネットで見ると『無かった』等が多い。一般的にも知られていない。これを授業でやるのは、めげる気もする」という意見に対し、参加者の中から「根拠となる写真や資料を使ってやる。慰安婦もたとえ教科書から消えてもやっていく意味がある」という発言があつて良かったと思いました。まず、自分が学習して確信を持つことが大事です。それを子どもの発達段階に合わせて、写真・学習まんが・映像などを工夫して提示すれば、たとえ小学生でも一定の理解ができると改めて思いました。

第2部「中村哲医師・金八先生から学ぶ『ハンガーマップ』の授業」

映像をズームで流すのが不安でしたが、なんとか最後までご覧頂け、ありがたかったです。みなさんに、褒めて戴いた子どもたちの作文は『歴史地理教育』の連載4月号に掲載することができました。また、「自分もこの授業をやりたい」という方が多く、嬉しかったです。報告することで新たな発見や学びがありました。

3. 参加者の感想

・新学習指導要領よる公民～歴史の流れについてはわかりづらく、宮崎先生がおっしゃる とおり、歴史～公民の流れの方が自然体だと思います。戦争のむごさ、おそろしさ、愚かさを教えず、日本国憲法でいくら平和主義を教えても、平和な時代に生まれてきた今の生徒には、伝わりづらいつところがあるなど感じています。特別支援学校の場合は、3年間で、平和学習を積み重ねることで、戦争を2度としてはいけないこと、日本国憲法の平和主義がいかに尊いことかを伝え続けていきたいと思ひます。

ハンガーマップと金八先生の教材も、今、社会でも注目されている SDGsの取り組みにも関連していることで、すぐにでも授業で使いたいものでした。特に「メイドイン〇〇」の世界地図やハンガーマップは、日本(自分)と世界を比較したり、関連付けたりするときに有効で、特別支援の生徒にとって視覚的にもわかりやすいものであると感じました。

中村哲さんの生き方は、本当に素晴らしいと思ひます。医者という名誉も地位も捨てて、身一つでアフガニスタンで井戸を掘るという決意は、誰かのために役に立つ、誰かの暮らしを支えるというあたりまえのようで、難しいことを実践されていると思ひます。将来就労を目指す生徒たちにとって、なぜ人は働くのか・仕事のやりがいとは何なのか?を考えるきっかけにもなると感じました。社会科はもちろん、職業や道徳の授業にも教材化できる可能性を感じました。ちなみに「希望の一

滴」Amazon で即買いです。また、明日からの授業づくりを頑張ります！（Mさん）

・今回の授業づくり講座も学ぶべきことが多くある授業でした。

宮崎先生の授業実践では、金八先生を映像資料として活用したり、身近なものを「教材化」することで児童が積極的に参加する様子を見ることができました。「身近な外国みつけたよ」では、休憩時間に外国産のものを探し、大人の私たちですら「あんな国があった」「こんな国があった」などと盛り上がるのだから、教室では大盛り上がり間違いなしだと思います。そして、そのような楽しい活動から入って、生徒の切実性に訴えかけるような授業を私も教員になったら実践してみたいと思いました。また、授業では扱いきれない範囲についても、授業が終わってもつながり、広がるようなものにしていく重要性も感じました。「教材を作る時間がない。」という発言がありましたが、特にコロナ禍にあって増した激務によって、教員はとて時間がない状況にあるのだと思います。そのような状況だからこそ歴教協の取り組みは重要であるし、積極的に参加していきたいと考えました。（Kさん）

・教科書の問題のあとに、じゃあ、実際、どういう風に授業をつくっていけばいいのか、具体的に教えていただいて、大変勉強になりました。自分たちの身近なものから、世界を知るきっかけをもち、世界の貧困について学ぶ素晴らしい実践だと感じました。色々なことが、授業の材料になることを教えていただきました。授業作るとは時間と手間がかかりますが、やっぱり、教師として楽しい時間でもあると思うので、そういうことを忘れないように、アンテナをはっていたいと思いました。

また、中村先生が亡くなったことは、非常に辛いことではありましたが、中村先生の意志は、やっぱりこれからも伝えていかなければならないと思いました。

中村先生の講演を聴けた経験を活かして、私なりに、子どもたちに伝えたいと思っています。

素晴らしい実践教えてください、本当に、ありがとうございました。

職場復帰を前に、色々考えるきっかけになりました。（T2さん）

・今回の授業づくり講座は「中学生にもおすすめ！」という言葉にも惹かれましたが、何より、歴史地理教育の宮崎さんの連載を読んで、感動し（宮崎さんを存じ上げているからかもしれませんが）、特にお話を聞いてみたいと思い、参加させていただきました。

教科書に関してのお話を伺い、教師が自分で考えることをせずに教科書だけに頼ると、政府の意向にからめとられてしまうという恐れを再認識しました。小6の社会の学ぶ順の変更は、もはや社会科学の認識を覆すようなものです。その中で、ばらばらにすること で、歴史→政治の順番に学習しやすくするなどの工夫で、何とか頑張ろうとしている教科書会社があることは、困難が多い中でも心強く感じました。

身近な外国を探そうというのは、中学の地理でも行うのですが、それを色別の付箋で表現し、地図で可視化する方法は、とてもいいなと思いました。次にその単元を受け持ったときには、真似させていただきます！

もし、宮崎さんに教わった生徒が私の中学に入学してくれば、中学校での社会科がより厚みのある学習になると思いました。しかし、そうではない生徒（変な順番で社会科を教えられた生徒）が入学してくる可能性が高いので、中学校の役割を自覚し、心して取り組まなければならないと思いました。ありがとうございました。（Iさん）

・学習指導要領や教科書問題のような論理的なお話しと、子どもたちと取り組んできた授業の両方を分かりやすく話して下さることに感銘を受けました。子どもたちに具体的なことから世界の国の抱えている問題点を考えさせる手だては鮮やかです。そして、金八先生のハンガーマップ、中村哲さんの生き方、と子どもたちの心を揺さぶる教材を示すことから、子どもたちの心に刻まれる授業となるのですね。

映像が止まって、会場のみなさんをご苦労されている間、ZOOM組で、宮崎さんの御報告に関連した話し合いをしていました。「中村哲さんが殺されたとき、どんな授業を組みましたか？」Yさん、Iさんが、特設授業をすぐに行ったことを話して下さいました。学生さんから「計画に無い授業をしても良いのですか？」という質問が出ました。「いま伝えたいことがあるときは、特設授業を組んでもいいですよ。ただし、管理職によっては、それがやりにくい学校もあるから、そういうときは、授業の初めの時間を使って、少しでも伝えるといいんじゃないかな」と、そんな話し合いも出来ました。(Tさん)